

全国にはばたく闘いを支えよう

オセ七回家族会総会開催

二月七日、千葉市社会センターにおいて、第七回家族会総会が開催された。

当日は、雪が降るなかであったが、各地より家族が集まり、成功裡に総会が行なわれた。

まず、あいさつにたった佐藤会長は、「一年間に三人も首相が変わるという中であって、大変危険な世の中になろうとしています。また、解雇撤回をめぐる問題も、今年は勝負になるそうです。親組合は、そうしたことに對し、『全国にはばたこう』という方針で、九月・一二月の集会を成功させました。私たち家族も、親組合の闘いを支えながら、家族会の発展させていきたいと思えます。」と発言した。

また、来賓あいさつとして、選挙戦の真っ最中の中江市議が駆け付け、「阪神大震災の後、危機管理や自衛隊法の改悪が問題となっている。大地震に對し、船橋でも対策をどう備えたらベストなのかを痛切に感じているが、それにかこつけた反動的な政策は許せない。」「船橋で、パート労働者の退職金制度を条例化させた。家族会も地域に打って出て、市議会にパート労働者の退職金制度をつくれと訴えていこう。家族会のあるところには、闘いがある。三井・三池の闘いは、家族組合が闘いを引っ張った。ぜひ家族の闘いをもっと強化させるよう頑張ってください。」と訴えた。

さい。」と訴えた。

続いて中野委員長のあいさつ、家族会役員から「取り組みの経過」「これからの取り組み」の提案を受け、質疑応答に入った。集まった会員からは、「料理学校をまた行って欲しい」「遊園地にみんなで行って欲しい」「バス旅行はどうか」などの意見が出された。

当面、五月連休明けを目途に、「連続総座」を開催することとし、散会した。

これからも、家族会発展のために奮闘しよう！



2/15号交渉 佐倉駅電留線に冬季対策要員を張り付け

二月一日、「車両凍結防止のバックアップ体制について」と称する業務に関して、団交が開催された。

同業務は、一月一八日～三月三十一日まで、千葉駅検査派出の泊り勤務者四名のうち一名を、夜佐倉駅に移動させ、早朝の車両凍結警戒にあたる（臨検対応も含む）。また、終夜き電となったら成田派出も通常より一本早い電車に便乗し、凍結警戒にあたる。」という内容である。

しかし、千葉派出は、早朝、四名のうち二名が仮眠時間であり、一名が佐倉へ行っている間、全く一人となってしまう。これでは臨検業務が発生した場合に支障が生じることは明らかだ。

検査派出は、車両故障等、臨検が発生した場合、敏速に對応しなければならぬ。当然、一人では、修理出来る業務が限られて、危険度も多いに増す。なによりも千葉派出は四名が必要だから、要員措置しているのだから、期間限定とはいえ、凍結対策に二カ月半もあてるというのは、言語道断である。

しかし、団交は以下のとおり

組 千葉派出は早朝一人体制となり、臨検対応について困難が生じる。凍結防止のために、要員措置をすべきである。

組 千葉派出の加修実績から見て、対応可能と判断した。

が説明した実績は、組合の調査と全く違っている。

組 説明した実績は、四時～六時三〇分までに二人体制が必要な臨検作業について説明した。月に数回である。

組 そんなことはない、月に一〇数回臨検作業が発生している。一人で出来る作業と判断した区分けの基準はなんなのか。

組 二人で出来る作業と一人で出来る作業との明確な区分けの基準はない。実績から判断した。

当面の予定

二月九日 十時から
乗務員分科
オセ七回定期季
千葉市民会館

二月十五日 十三時
オセ三十三回
定期委員会
千葉市民会館

全力で傍聴に
かけつけよう